

平成 31 年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の結果について

令和元年 9 月
福岡市教育委員会

1 調査の概要

（１）調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から，全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し，教育施策の成果と課題を検証し，その改善を図るとともに，そのような取組を通じて，教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。また，学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

（２）調査の対象とする児童生徒

（小学校調査）

- ・ 小学校第 6 学年，特別支援学校小学部第 6 学年

（中学校調査）

- ・ 中学校第 3 学年，特別支援学校中学部第 3 学年

（３）調査事項及び手法

①児童生徒に対する調査

ア 教科に関する調査〔国語，算数・数学，英語〕

国語，算数・数学，英語について，それぞれ「知識に関する問題」と「活用に関する問題」を一体的に問う問題形式。

イ 質問紙調査

学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施。

②学校に対する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査を実施。

（４）調査の方式

悉皆調査

（５）調査日時

平成 31 年 4 月 18 日（木）

（小学校調査）

1 時限目	2 時限目	2 時限目終了後以降
国語 (45分)	算数 (45分)	児童質問紙 (20～40分程度)

（中学校調査）

1 時限目	2 時限目	3 時限目	3 時限目終了以降	4～6 時限目
国語 (50分)	数学 (50分)	英語 「聞くこと，読むこと，書くこと」調査 (45分)	生徒質問紙 (20～45分程度)	英語 「話すこと」調査 (5分程度)

(6) 集計児童生徒・学校数

①集計基準

児童生徒に対する調査について、平成 31 年 4 月 18 日に実施された教科に関する調査及び質問紙調査の結果を集計。学校に対する質問紙調査については、在籍する児童生徒が調査を実施した学校の結果を集計。

②集計児童生徒数（4 月 18 日に調査を実施した児童生徒数）

（小学校第 6 学年，特別支援学校小学部第 6 学年）

国語 13,069 人

算数 13,074 人

（中学校第 3 学年，特別支援学校中学部第 3 学年）

国語 11,162 人

数学 11,160 人

英語 11,160 人

③集計学校数

（小学校第 6 学年，特別支援学校小学部第 6 学年）

・小学校 142 校（小呂小，志賀島小は，調査対象児童がいないため，未実施）

・特別支援学校 1 校

（中学校第 3 学年，特別支援学校中学部第 3 学年）

・中学校 68 校（小呂中は，調査対象生徒がいないため，未実施）

・特別支援学校 1 校

2 調査結果と考察

(1) 調査結果と考察の考え方

本調査結果については、本市における調査結果を全国及び福岡県と比較して示すとともに、本市の過去の調査結果をもとにした経年変化からも本市の学力の状況について考察を行う。

また、教科に関する調査結果をもとに、その要因を児童生徒に対する質問紙調査や学校に対する質問紙調査の結果からも考察を行う。

(2) 教科に関する調査結果の概要

①教科に関する調査結果の概況

(%)

小学校調査		国語	算数
福岡市(市立)	平均正答率	64	68
福岡県(公立)	平均正答率	65	67
全国(公立)	平均正答率	63.8	66.6
福岡市(市立)	標準化得点	100.0	102.2

○ 国語は全国と同程度、算数は全国平均を上回る。

(%)

中学校調査		国語	数学	英語 「聞くこと 読むこと 書くこと」
福岡市(市立)	平均正答率	74	62	57
福岡県(公立)	平均正答率	72	59	54
全国(公立)	平均正答率	72.8	59.8	56
福岡市(市立)	標準化得点	101.4	103.1	102.5

○ 国語、数学、英語「聞くこと、読むこと、書くこと」すべてで全国平均を上回る。

(%)

中学校調査		英語 「話すこと」
福岡市(市立)	平均正答率	35 ※1
福岡県(公立)	平均正答率	—
全国(国公立)	平均正答率	30.8(参考値) ※2
福岡市(市立)	標準化得点	113.6

○ 英語「話すこと」は全国平均を上回る。

※1

「話すこと」調査結果については都道府県別、指定都市別の平均正答率の公表は行われなかったため、福岡市の平均正答率に関しては市内の学校を集計して算出

※2

学校のPC端末等を利用して実施した「話すこと」調査は、「パソコンの条件を満たせなかった」、「当日になってパソコンなどに不具合が出た」等で実施できなかった学校があるため(参考値)として文部科学省が公表

②教科ごとの正答数分布
【小学校】

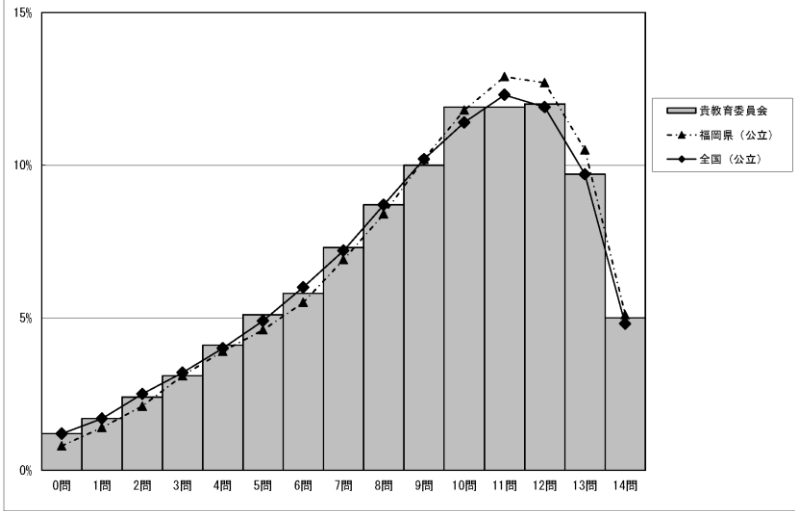
平成31年度全国学力・学習状況調査
調査結果概況 [国語]
福岡市教育委員会－児童

小学校調査

・以下の集計値／グラフは、4月18日に実施した調査の結果を、児童を対象として集計した値である。

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
福岡市教育委員会	13,069	8.9 / 14	64	10.0	3.4
福岡県（公立）	44,458	9.2 / 14	65	10.0	3.3
全国（公立）	1,028,203	8.9 / 14	63.8	10.0	3.4

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



正答数集計値				
正答数	児童数	割合(%)	割合(%)	全国(公立)
	貴教育委員会	貴教育委員会	福岡県(公立)	
14問	650	5.0	5.1	4.8
13問	1,267	9.7	10.5	9.7
△ 12問	1,574	12.0	12.7	11.9
11問	1,556	11.9	12.9	12.3
◇ 10問	1,551	11.9	11.8	11.4
9問	1,309	10.0	10.2	10.2
8問	1,139	8.7	8.4	8.7
▽ 7問	959	7.3	6.9	7.2
6問	758	5.8	5.5	6.0
5問	661	5.1	4.6	4.9
4問	534	4.1	3.9	4.0
3問	410	3.1	3.1	3.2
2問	318	2.4	2.1	2.5
1問	223	1.7	1.4	1.7
0問	160	1.2	0.8	1.2

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	貴教育委員会	福岡県(公立)	全国(公立)
△ 第3四分位	12.0問	12.0問	12.0問
◇ 第2四分位	10.0問	10.0問	10.0問
▽ 第1四分位	7.0問	7.0問	7.0問

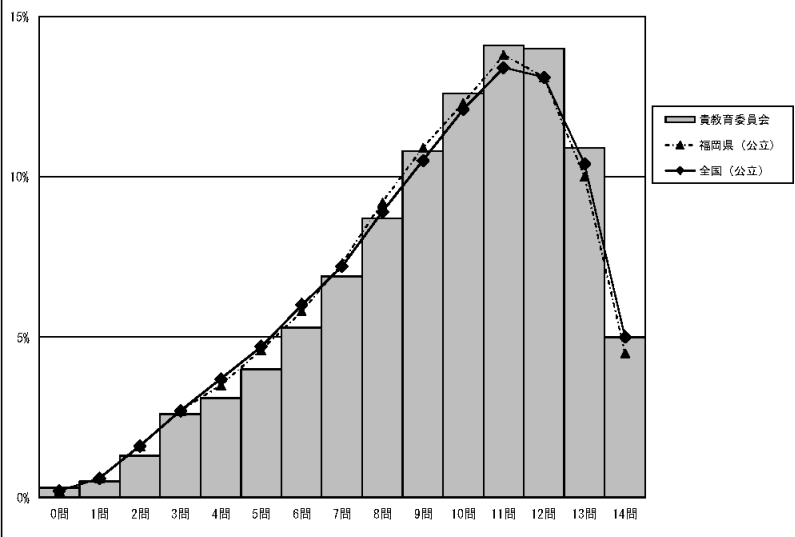
平成31年度全国学力・学習状況調査
調査結果概況 [算数]
福岡市教育委員会－児童

小学校調査

・以下の集計値／グラフは、4月18日に実施した調査の結果を、児童を対象として集計した値である。

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
福岡市教育委員会	13,074	9.5 / 14	68	10.0	3.0
福岡県（公立）	44,466	9.3 / 14	67	10.0	3.0
全国（公立）	1,028,177	9.3 / 14	66.6	10.0	3.1

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



正答数集計値				
正答数	児童数	割合(%)	割合(%)	全国(公立)
	貴教育委員会	貴教育委員会	福岡県(公立)	
14問	649	5.0	4.6	5.0
13問	1,423	10.9	10.0	10.4
△ 12問	1,827	14.0	13.1	13.1
11問	1,844	14.1	13.8	13.4
◇ 10問	1,650	12.6	12.3	12.1
9問	1,406	10.8	10.9	10.5
▽ 8問	1,138	8.7	9.2	8.9
7問	898	6.9	7.3	7.2
6問	695	5.3	5.8	6.0
5問	528	4.0	4.6	4.7
4問	400	3.1	3.5	3.7
3問	335	2.6	2.7	2.7
2問	176	1.3	1.6	1.6
1問	70	0.5	0.6	0.6
0問	35	0.3	0.2	0.2

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	貴教育委員会	福岡県(公立)	全国(公立)
△ 第3四分位	12.0問	12.0問	12.0問
◇ 第2四分位	10.0問	10.0問	10.0問
▽ 第1四分位	8.0問	7.0問	7.0問

【中学校】

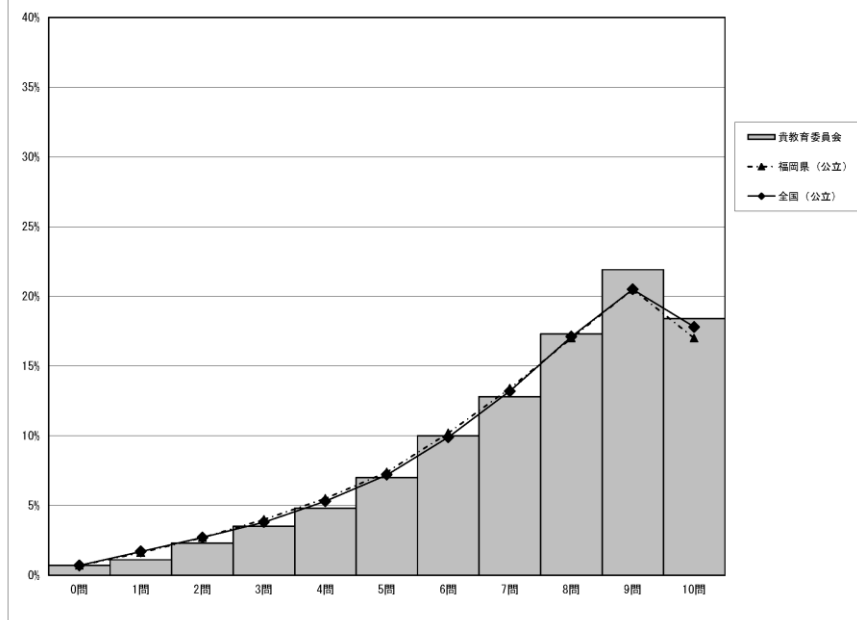
平成31年度全国学力・学習状況調査
調査結果概況 [国語]
福岡市教育委員会－生徒

中学校調査

・以下の集計値／グラフは、4月18日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
福岡市教育委員会	11,162	7.4 / 10	74	8.0	2.3
福岡県（公立）	39,699	7.2 / 10	72	8.0	2.4
全国（公立）	938,797	7.3 / 10	72.8	8.0	2.4

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



正答数集計値				
正答数	生徒数	割合(%)	割合(%)	割合(%)
	貴教育委員会	貴教育委員会	福岡県（公立）	全国（公立）
10問	2,050	18.4	17.0	17.8
9問	2,450	21.9	20.5	20.5
8問	1,929	17.3	17.0	17.1
7問	1,434	12.8	13.4	13.2
6問	1,117	10.0	10.2	9.9
5問	785	7.0	7.4	7.2
4問	535	4.8	5.5	5.3
3問	395	3.5	4.0	3.8
2問	261	2.3	2.7	2.7
1問	124	1.1	1.6	1.7
0問	82	0.7	0.7	0.7

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	貴教育委員会	福岡県（公立）	全国（公立）
△ 第3四分位	9.0問	9.0問	9.0問
◇ 第2四分位	8.0問	8.0問	8.0問
▽ 第1四分位	6.0問	6.0問	6.0問

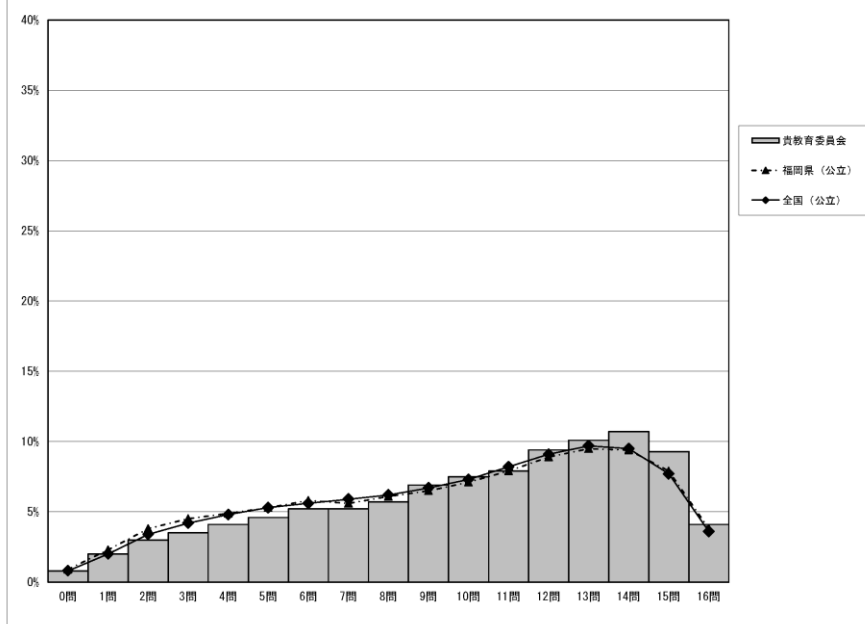
平成31年度全国学力・学習状況調査
調査結果概況 [数学]
福岡市教育委員会－生徒

中学校調査

・以下の集計値／グラフは、4月18日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
福岡市教育委員会	11,160	9.9 / 16	62	11.0	4.2
福岡県（公立）	39,703	9.5 / 16	59	10.0	4.3
全国（公立）	938,887	9.6 / 16	59.8	10.0	4.2

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



正答数集計値				
正答数	生徒数	割合(%)	割合(%)	割合(%)
	貴教育委員会	貴教育委員会	福岡県（公立）	全国（公立）
16問	460	4.1	3.8	3.6
15問	1,033	9.3	7.9	7.7
14問	1,195	10.7	9.4	9.5
13問	1,123	10.1	9.5	9.7
12問	1,051	9.4	8.9	9.1
11問	884	7.9	7.9	8.2
10問	833	7.5	7.1	7.3
9問	765	6.9	6.5	6.7
8問	631	5.7	6.1	6.2
7問	584	5.2	5.6	5.9
6問	585	5.2	5.8	5.6
5問	514	4.6	5.3	5.3
4問	461	4.1	4.9	4.8
3問	394	3.5	4.5	4.2
2問	334	3.0	3.8	3.4
1問	219	2.0	2.3	2.0
0問	94	0.8	0.9	0.8

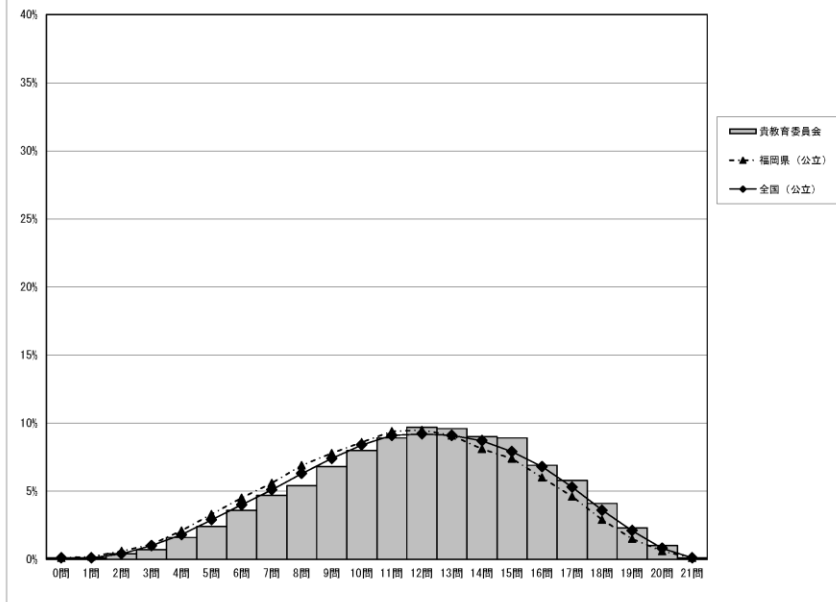
※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	貴教育委員会	福岡県（公立）	全国（公立）
△ 第3四分位	13.0問	13.0問	13.0問
◇ 第2四分位	11.0問	10.0問	10.0問
▽ 第1四分位	7.0問	6.0問	6.0問

・以下の集計値／グラフは、4月18日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
福岡市教育委員会	11,160	12.1 / 21	57	12.0	3.9
福岡県（公立）	39,711	11.4 / 21	54	11.0	3.9
全国（公立）	938,888	11.8 / 21	56.0	12.0	3.9

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



正答数集計値				
正答数	生徒数	割合(%)		
	貴教育委員会	貴教育委員会	福岡県（公立）	全国（公立）
21問	10	0.1	0.1	0.1
20問	115	1.0	0.6	0.8
19問	254	2.3	1.5	2.1
18問	457	4.1	2.9	3.6
17問	613	5.8	4.6	5.3
16問	773	6.9	6.0	6.8
15問	993	8.9	7.4	7.9
14問	999	9.0	8.1	8.7
13問	1,069	9.6	9.1	9.1
12問	1,088	9.7	9.5	9.2
11問	990	8.9	9.4	9.1
10問	890	8.0	8.6	8.4
9問	760	6.8	7.8	7.4
8問	604	5.4	6.9	6.3
7問	527	4.7	5.6	5.1
6問	403	3.6	4.5	4.0
5問	271	2.4	3.3	2.9
4問	174	1.6	2.1	1.8
3問	79	0.7	1.1	1.0
2問	41	0.4	0.6	0.4
1問	12	0.1	0.2	0.1
0問	8	0.1	0.1	0.1

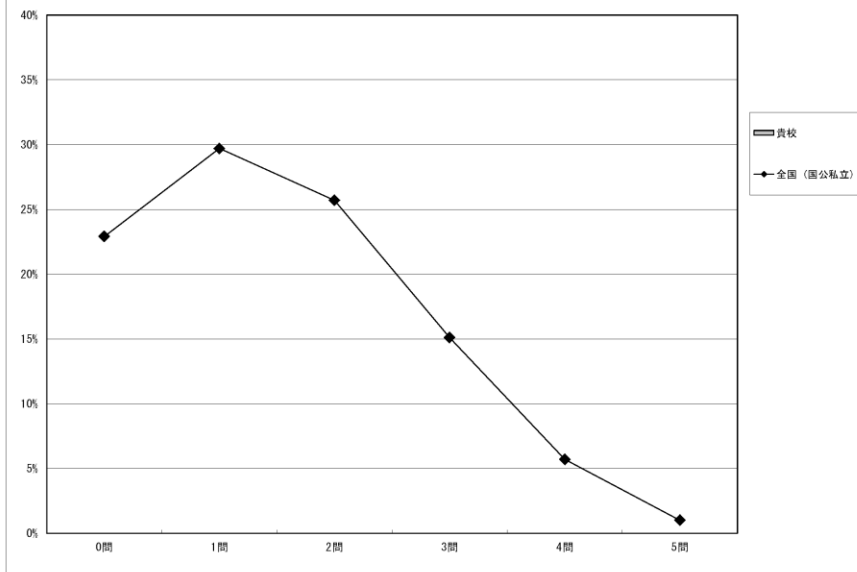
※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	貴教育委員会	福岡県（公立）	全国（公立）
△ 第3四分位	15.0問	14.0問	15.0問
◇ 第2四分位	12.0問	11.0問	12.0問
▽ 第1四分位	9.0問	9.0問	9.0問

・以下の集計値／グラフは、4月18日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。
※ただし、4月18日に調査を実施していない学校については、4月19日以降5月7日までに実施した調査の結果を集計した値とする。

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
全国（国公立）	917,978	1.5 / 5	30.8	1.0	1.2

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



正答数集計値			
正答数	生徒数	割合(%)	
	貴校	貴校	全国（国公立）
5問	—	—	1.0
4問	—	—	5.7
3問	—	—	15.1
2問	—	—	25.7
1問	—	—	29.7
0問	—	—	22.9

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	貴校	全国（国公立）
△ 第3四分位	—	2.0問
◇ 第2四分位	—	1.0問
▽ 第1四分位	—	1.0問

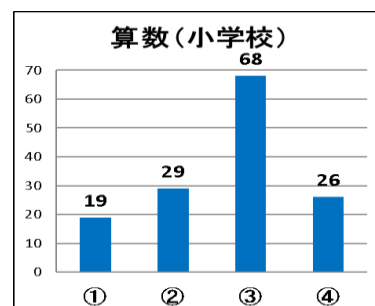
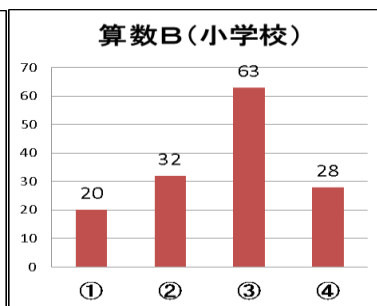
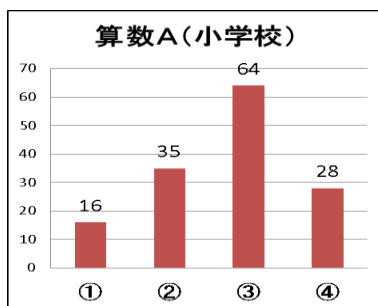
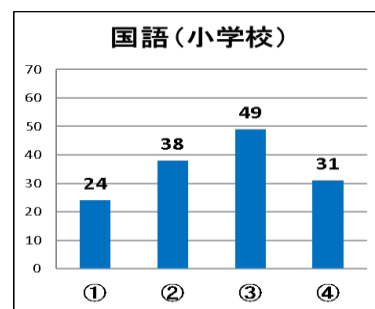
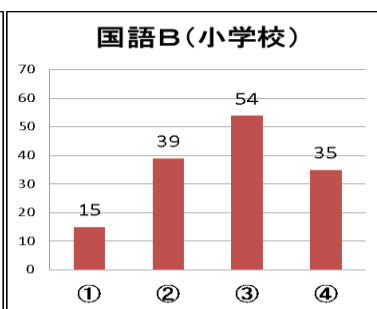
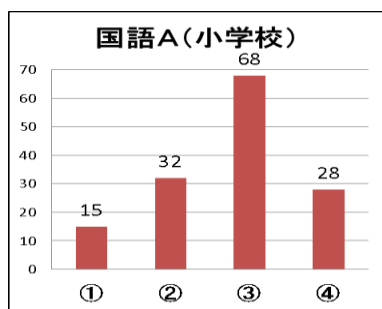
③ 4段階の学校群ごとの比較

(数字は学校数)

【小学校】①上回っている，②やや上回っている，③同程度である，④努力を要する

平成 30 年度

平成 31（令和元）年度

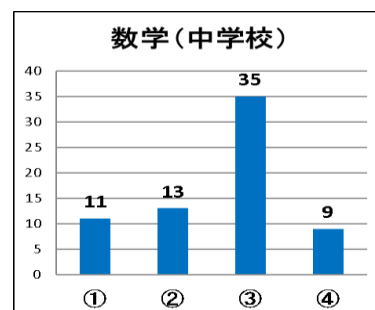
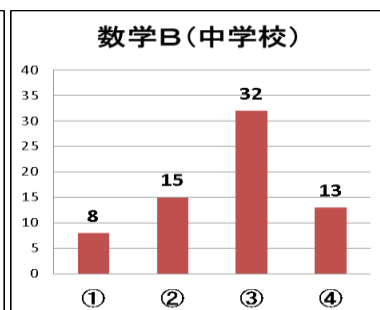
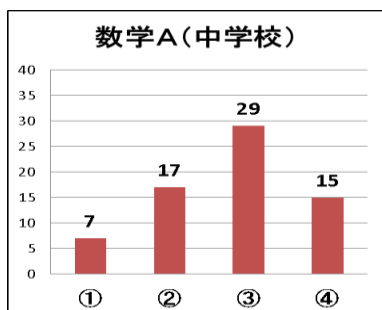
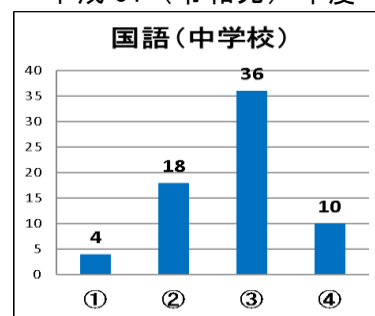
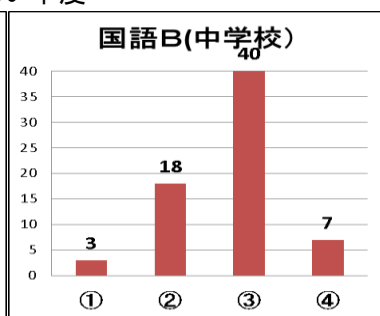
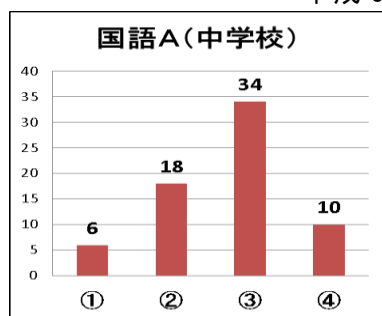


- ◆国語については上位群（①）の学校が増えた一方下位群（④）の学校が全体の約 22% と依然多くなっている。
- ◆算数については昨年と比べて，上位群（②）の学校数が減った分中位群（③）の学校数が増加している。

【中学校】①上回っている，②やや上回っている，③同程度である，④努力を要する

平成 30 年度

平成 31（令和元）年度



- ◆国語は，上位層（①）の学校が少なく，それに対し下位群（④）の学校が約15%と多くなっている。
- ◆数学は，中位群（③）の校数が増え，下位群（④）の校数が減っている。なお，数学のみ下位群（④）より，上位層（①）の方が多くなる傾向が見られた。

④ H28 年度小 6， H31（R1） 年度中 3 の同一児童生徒群結果の経年比較

【各教科，観点ごとの平均正答率】

(%)

国語の観点	H28 小学校6年生						H31 中学校3年生		
	国語A			国語B			国語		
	福岡市	全国	全国との差	福岡市	全国	全国との差	福岡市	全国	全国との差
国語への関心・意欲・態度				54.9	54.7	0.2	77.8	76.5	1.3
話す・聞く能力	81.2	79.2	2.0	52.3	51.1	1.2	72.2	70.2	2.0
書く能力	74.7	72.8	1.9	54.4	53.4	1.0	82.6	82.6	0.0
読む能力	79.2	78.5	0.7	68.9	69.3	-0.4	74.5	72.2	2.3
言語についての知識・理解・技能	70.4	71.1	-0.7				67.5	67.7	-0.2
算数・数学の観点	H28 小学校6年生						H31 中学校3年生		
	算数A			算数B			数学		
	福岡市	全国	全国との差	福岡市	全国	全国との差	福岡市	全国	全国との差
算数・数学への関心・意欲・態度									
数学的な考え方				41.9	40.9	1.0	53.6	51.0	2.6
数量や図形についての技能	82.7	82.5	0.2	55.7	53.3	2.4	67.8	63.9	3.9
数量や図形についての知識・理解	75.6	75.4	0.2	71.0	69.5	1.5	72.2	71.3	0.9

- ◆国語においては，「国語への関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「読む能力」については，平成 28 年度調査，本年度調査ともに全国平均を上回る結果となっている。このことは，児童生徒の国語の学力が着実に定着しているものと考えられる。
- ◆「書く能力」が，平成 28 年度の調査において，A B 調査ともに全国平均を上回っていたものの，本年度の中学校調査においては，全国平均と同程度となっていることから，「書く能力」に課題があることが明らかになった。このことは，後ろのページに掲載している「記述式問題での無回答率」との関係があると考えられ，無回答率と併せて分析することが求められる。
- ◆算数・数学においては，「数学的な考え方」「数量や図形についての技能」については，平成 28 年度調査と比較して伸びが見られる。「数量や図形についての知識・理解」については，平成 28 年度調査と本年度調査を比較すると，ほぼ同程度であると捉えられる。今後さらに「数学的な考え方」を向上させていくためには，「知識・理解」の定着に目を向けた指導の充実が求められる。

【質問紙調査の状況】

(%)

朝食を毎日食べていますか			
	H28小学校	H31(R1)中学校	差
肯定的回答率	94.4	92.1	
全国との差	-1.1	-1.0	0.1

毎日、同じぐらいの時刻に起きていますか			
	H28小学校	H31(R1)中学校	差
肯定的回答率	89.7	94.5	
全国との差	-1.1	1.7	2.8

家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか			
	H28小学校	H31(R1)中学校	差
肯定的回答率	61.6	45.2	
全国との差	-0.6	-5.2	-4.6

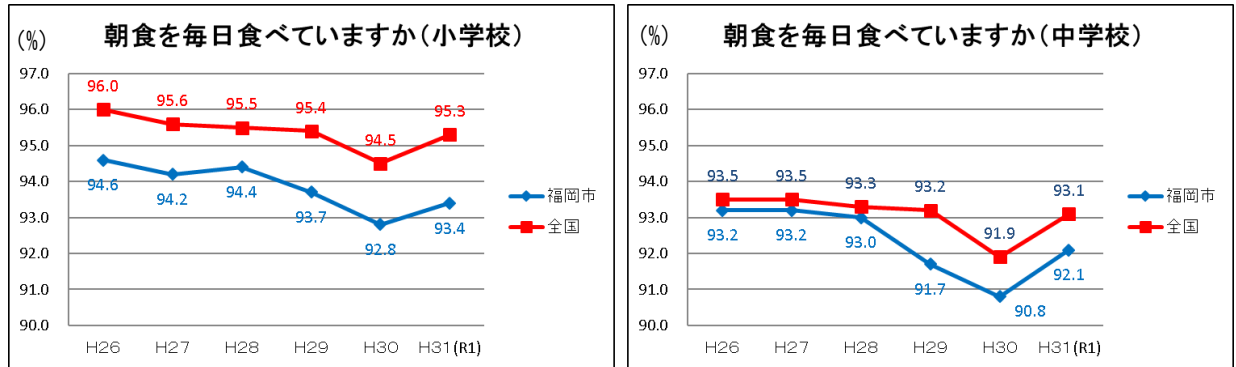
国語の授業の内容はよく分かりますか			
	H28小学校	H31(R1)中学校	差
肯定的回答率	78.3	86.2	
全国との差	-2.4	-1.4	1.0

算数・数学の授業の内容はよく分かりますか			
	H28小学校	H31(R1)中学校	差
肯定的回答率	77.6	71.1	
全国との差	-2.6	-2.8	-0.2

- ◆朝食や起床時刻等の基本的な生活習慣の定着については、中学校3年時で小学校6年時に比べ伸びが見られる。
- ◆「家で、自分で計画を立てて勉強すること」については、下降していることから、各学校における取組状況を確認することが求められる。
- ◆国語や算数・数学の理解度については、「第2次福岡市教育振興基本計画」における評価指標と関係することから、各学校においては、今後も継続的に自校の児童生徒の学習に対する理解度について把握していくことが求められる。

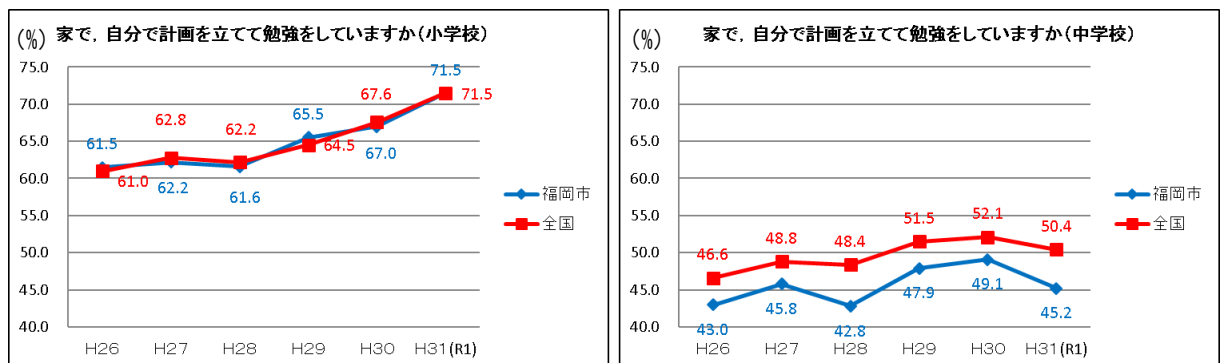
⑤生活習慣や学習習慣の定着状況

○朝食を毎日食べていますか（児童生徒質問紙 平成26年度からの経年比較）



- ◆小中学校ともに、昨年度まで全国平均と同様に下降している傾向にあったものの、本年度は、上昇した。しかしながら、福岡市は、全国平均に比べやや低い値で推移している。
- ◆中学校においては、平成28年度までは全国平均とほぼ同様であったが、平成29年度、から全国平均との差がやや開きつつある。
- ◆文部科学省は、これまでも朝食と学力に相関があると述べている。本市においては、小中学校ともに全国平均を下回っていることから、今後も取組の充実を図る必要がある。

○家で、自分で計画を立てて勉強していますか（児童生徒質問紙 平成26年度からの経年比較）



- ◆「家で、自分で計画を立てて勉強していますか」という児童生徒質問紙については、小学校においては、全国平均とほぼ同様であるとともに、上昇傾向が見られる。
- ◆中学校においては、昨年度まで小学校と同等に上昇傾向が見られていたが、本年度は下降している。また、全国平均を下回る値で推移している。
- ◆文部科学省は、家庭学習の取組状況と学力とに相関関係があると述べている。本市においては、中学校が全国平均を下回る傾向にあるため、家庭学習の取組に関して今後も充実を図る必要がある。

(3) 小学校国語に関する調査結果について

①観点ごとの調査結果

全国平均正答率と比べ 上回っている 下回っている (%)

小学校国語	福岡市	全国
教科全体	64	63.8
国語への関心・意欲・態度	55.2	57.6
話すこと・聞くこと（能力）	70.9	72.3
書くこと（能力）	54.3	54.5
読むこと（能力）	81.9	81.7
言語についての知識・理解・技能	54.5	53.5

- ◆「読むこと」「言語についての知識・理解・技能」の観点で、全国平均を上回っている。
- ◆「国語への関心・意欲・態度」「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」で、全国平均を下回っている。特に「書くこと」については、後ろのページの「無回答率」とも関係することから、各学校での取組をさらに充実させる必要がある。

②平均正答率が高かった問題と低かった問題

【正答率が高かった問題】

(%)

問題番号	設問の概要	市	全国	全国比
2 一 (1)	目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む	81.9	80.7	+1.2
2 二	目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読む	88.2	88.5	-0.3

【正答率が低かった問題】

(%)

問題番号	設問の概要	市	全国	全国比
1 三	目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く	27.2	28.8	-1.6
1 四 (1) ウ	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う	38.3	35.6	+2.7

③児童に対する質問紙調査の結果から

問39 「国語の授業の内容はよく分かりますか」	81.0% (全国比 -3.9)
問42 「国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしていますか」	75.4% (全国比 -2.7)
問57 「解答時間は十分でしたか（国語）」	63.5% (全国比 -10.7)

- ◆「国語の授業の内容はよく分かる」と回答した児童が、8割を超えているものの、全国平均を下回っている。
- ◆「目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしている」と回答した児童の割合が、全国平均を下回っている。

④学校に対する質問紙調査の結果から

問42	「調査対象学年の児童に対する国語の指導として、前年度までに、書く習慣を付ける授業を行いましたか」	87.4% (全国比 -5.4)
問43	「調査対象学年の児童に対する国語の指導として、前年度までに、様々な文章を読む習慣を付ける授業を行いましたか」	81.1% (全国比 -7.1)

- ◆「解答時間は十分だった」と回答した児童の割合が、全国平均を大きく下回っている。
- ◆「書く習慣を付ける授業を行った」「様々な文章を読む習慣を付ける授業を行った」と回答した学校の割合が、8割を超えているものの、全国平均を下回っている。

※小学校国語の正答率が低かった問題（**1**三）

【正答率…市：27.2，全国：28.8 無回答率…市：5.1，全国：3.8】

三 高橋さんは、「3 調査の結果をもとに考えたこと」の に「2 調査の内容と結果」の (1)と(2)で分かったことをまとめて書いています。 に入る内容を、次の条件に合わせて書きましょう。

〈条件〉

- 「2 調査の内容と結果」の(1)と(2)の両方から言葉や文を取り上げて書くこと。
- 【報告する文章】にふさわしい表現で書くこと。
- 書き出しの言葉に続けて、四十文字以上、七十文字以内にまとめて書くこと。なお、書き出しの言葉は字数にふくむ。

※左の原稿用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。
※◆の印から書きましょう。とちゅうで行を変えないで、続けて書きましょう。

調査の結果から、公衆電話は、わたしたちにとって
必要がなくなってしまうたわけではないと考えました。
なぜなら、◆

70字

40字

(4) 小学校算数に関する調査結果について

①領域ごとの調査結果

全国平均正答率と比べ 上回っている 下回っている (%)

小学校算数	福岡市	全国
教科全体	68	66.6
数と計算	64.4	63.2
量と測定	54.2	52.9
図形	77.9	76.7
数量関係	69.7	68.3

②観点ごとの調査結果 (%)

小学校算数	福岡市	全国
教科全体	68	66.6
算数への関心・意欲・態度		
数学的な考え方	63.6	62.2
数量や図形についての技能	75.1	73.6
数量や図形についての知識・理解	70.2	70.1

◆領域ごとでは、すべての領域で、全国平均を上回っている。

◆観点ごとでは、すべての観点で、全国平均を上回っているが、「知識・理解」が全国とほぼ同程度となっている。今後さらに、考え方や技能を伸ばしていくためにも、「知識・理解」についてさらに向上させる必要がある。

③平均正答率が高かった問題と低かった問題

【正答率が高かった問題】 (%)

問題番号	設問の概要	市	全国	全国比
1 (1)	台形について理解している	93.6	93.1	+0.5
2 (1)	棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取ることができる	95.4	95.2	+0.2

【正答率が低かった問題】 (%)

問題番号	設問の概要	市	全国	全国比
1 (3)	示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述できる	44.2	43.9	+0.3
3 (2)	示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述できる	31.4	31.1	+0.3

④児童に対する質問紙調査の結果から

問48 「算数の授業の内容はよく分かりますか」	82.6% (全国比 -0.9)
問47 「算数の勉強は大切だと思いますか」	94.2% (全国比 +0.5)
問58 「調査問題の解答時間は十分でしたか(算数)」	81.1% (全国比 -2.9)

◆「授業の内容はよくわかる」「解答時間が十分だった」と回答した児童の割合が、8割を超えているものの、全国平均を下回っている。

◆「算数の勉強は大切だ」と回答した児童の割合が、9割を超え、全国平均を上回っている。

⑤学校に対する質問紙調査の結果から

問45 「調査対象学年の児童に対する算数の指導として、前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか」	97.2% (全国比 +0.7)
問46 「調査対象学年の児童に対する算数の指導として、前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか」	53.9% (全国比 -18.9)
問47 「調査対象学年の児童に対する算数の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか」	72.0% (全国比 -10.4)

◆「補充的な学習の指導を行った」と回答した学校の割合が全国平均を上回っている。

一方で、「発展的な学習の指導を行った」と回答した学校の割合が全国平均を下回っている。

※30年度(補充的な学習の指導:**+2.2**, 発展的な学習の指導:**-16.2**)

※小学校算数の正答率が低かった問題 (3)(2))

【正答率…市：31.4，全国：31.1 無回答率…市：11.8，全国10.8】

ゆいさんは、くり下がりのあるひき算を計算したときにもとにした考えをふり返って、次のようにまとめました。

【ゆいさんがまとめたこと】

ひき算では、
ひかれる数とひく数に同じ数をたしても、
ひかれる数とひく数から同じ数をひいても、
差は変わりません。
このことを使うと、計算しやすいひき算の式で考えることができます。

ことねさんは、 $400 \div 25$ や $90 \div 18$ のようなわり算についても、計算しやすい式にすることができると思い、下のように考えました。

【ことねさんの計算の仕方】

$$\begin{array}{rcl} 400 \div 25 & = & \square \\ \downarrow \times 4 & \downarrow \times 4 & \nearrow \text{変わらない} \\ 1600 \div 100 & = & 16 \end{array}$$

だから、 $400 \div 25$ の答えの $\square$ は、16です。

$$\begin{array}{rcl} 90 \div 18 & = & \square \\ \downarrow \div 9 & \downarrow \div 9 & \nearrow \text{変わらない} \\ 10 \div 2 & = & 5 \end{array}$$

だから、 $90 \div 18$ の答えの $\square$ は、5です。

(2) ひき算について書かれた【ゆいさんがまとめたこと】と同じように、わり算についても、【ことねさんの計算の仕方】をもとにまとめると、どのようになりますか。

下の $\square$ の中に、「わられる数」、「わる数」、「商」の3つの言葉を使って書きましょう。

わり算では、

※ 解答は、すべて解答用紙に書きましょう。

このことを使うと、計算しやすいわり算の式で考えることができます。

(3) 【ことねさんの計算の仕方】をもとに、 $600 \div 15$ について考えます。

$$\begin{array}{rcl} 600 \div 15 & = & \square \\ \downarrow \text{①} & \downarrow \text{②} & \nearrow \text{変わらない} \\ \text{㊦} \div \text{㊧} & = & \text{㊨} \end{array}$$

だから、 $600 \div 15$ の答えの $\square$ は、 ㊩ です。

上の①にあてはまるものを、下の $\square$ の中から1つ選び、また、上の②にあてはまるものを、下の $\square$ の中から1つ選んで、それぞれ書きましょう。

ただし、それぞれ、どれを選んでもかまいません。

① $\times 2, \div 3, \div 5$ ② $\times 2, \div 3, \div 5$

さらに、上の㊦、㊧、㊨、㊩に入る数を書きましょう。

(5) 中学校国語に関する調査結果について

① 観点ごとの調査結果

全国平均正答率と比べ 上回っている 下回っている (%)

中学校国語	福岡市	全国（公立）
教科全体	74	72.8
国語への関心・意欲・態度	77.8	76.5
話すこと・聞くこと（能力）	72.2	70.2
書くこと（能力）	82.6	82.6
読むこと（能力）	74.5	72.2
言語についての知識・理解・技能	67.5	67.7

◆「関心・意欲・態度」，「話すこと・聞くこと」「読むこと」において，全国平均を上回っている。

◆「言語についての知識・理解・技能」において，全国平均を下回っているが，「書くこと」が全国平均と同程度であり，「書くこと」については，記述式問題の取組状況と関連があることから，今後の各学校における取組の充実が求められる。

② 平均正答率が高かった問題と低かった問題

【正答率が高かった問題】 (%)

問題番号	設問の概要	市	全国	全国比
1 三	文章に表れているものの見方や考え方について，自分の考えをもつ	92.3	91.2	+1.1
3 一	書いた文章を読み返し，論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討する	88.1	87.4	+0.7

【正答率が低かった問題】 (%)

問題番号	設問の概要	市	全国	全国比
1 四	封筒の書き方を理解して書く	55.3	56.8	-1.5
2 三	話合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつ	64.1	60.4	+3.7

③ 生徒に対する質問紙調査の結果から

問42 「国語の授業の内容はよく分かりますか」	76.2%（全国比 -1.4）
問45 「国語の授業では，目的に応じて，自分の考えを話したり書いたりしていますか」	76.4%（全国比 -1.0）
問67 「解答時間は十分でしたか（国語）」	86.2%（全国比 -4.1）

◆「国語の授業の内容はよく分かる」「自分の考えを話したり書いたりしている」と回答した生徒の割合は，全国を下回っている。

◆「解答時間は十分であった」と回答した生徒の割合は，8割を超えているものの，全国を下回っている。

④学校に対する質問紙調査の結果から

問43	「調査対象学年の生徒に対する国語の指導として、前年度までに、書く習慣を付ける授業を行いましたか」	95.6%（全国比 +0.3）
問44	「調査対象学年の生徒に対する国語の指導として、前年度までに、様々な文章を読む習慣を付ける授業を行いましたか」	88.4%（全国比 -1.5）

◆「書く習慣を付ける授業を行った」と回答した学校の割合が、9割を超え、全国平均を上回っている。一方で、「様々な文章を読む習慣を付ける授業を行った」と回答した学校の割合は、8割を超えているものの、全国平均を下回っている。

※中学校国語の正答率が低かった問題（1四）

【正答率…市：55.3，全国：56.8 無回答率…市：4.9，全国：5.6】

1

0

0

6

5

4

3

原稿
在
中

※ 左の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

四 あなたは、「声の広場」への投稿を封筒で郵送しようとしています。「全国中学生新聞」に示されている投稿先の名前と住所を、次の条件1と条件2にしたがって、楷書^{かぎしよ}でていねいに書きなさい。なお、自分の名前と住所は不要です。

条件1 封筒の書き方に注意して縦書きで書くこと。

条件2 投稿先は団体なので、「様」ではなく「御中」と書くこと。

(6) 中学校数学に関する調査結果について

①領域ごとの調査結果

全国平均正答率と比べ 上回っている 下回っている (%)

中学校数学	福岡市	全国
教科全体	62	59.8
数と式	66.4	63.8
図形	72.7	72.4
関数	45.0	40.8
資料の活用	58.9	56.3

②観点ごとの調査結果の概況

(%)

中学校数学	福岡市	全国
教科全体	62	59.8
数学への関心・意欲・態度		
数学的な見方や考え方	53.6	51.0
数学的な技能	67.8	63.9
数量や図形についての知識・理解	72.2	71.3

◆領域、観点ともに、すべてで全国平均を上回っているが、「知識・理解」が全国平均と同程度となっており、この傾向は小学校と同様である。

③平均正答率が高かった問題と低かった問題

【正答率が高かった問題】

(%)

問題番号	設問の概要	市	全国	全国比
3	平行移動の意味を理解している	83.5	83.6	-0.1
7 (2)	反例の意味を理解している	79.1	77.2	+1.9

【正答率が低かった問題】

(%)

問題番号	設問の概要	市	全国	全国比
6 (2)	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる	37.4	34.7	+2.7
8 (2)	資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる	41.2	40.8	+0.4

④生徒に対する質問紙調査の結果から

問50	「数学の勉強は大切だと思いますか」	85.7% (全国比 +1.5)
問51	「数学の授業の内容はよく分かりますか」	71.1% (全国比 -2.8)
問52	「学習したことは、将来社会に出たとき役に立つと思いますか」	78.4% (全国比 +2.2)

- ◆「数学の勉強は大切だ」と回答した生徒の割合が、8割を超え、全国平均を上回っている。また、「学習したことは、将来社会に出たとき役に立つ」と回答した生徒の割合が、全国平均を上回っている。
- ◆「授業の内容はよく分かる」と回答した生徒の割合が、全国平均を下回っている。

⑤学校に対する質問紙調査の結果から

問46	「調査対象学年の生徒に対する算数の指導として、前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか」	92.8% (全国比 -1.5)
問47	「調査対象学年の生徒に対する算数の指導として、前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか」	65.2% (全国比 -11.3)
問48	「調査対象学年の児童に対する数学の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか」	72.5% (全国比 -5.6)

- ◆「補充的な学習の指導」「発展的な学習の指導」を行っている」と回答した学校の割合が、全国平均を下回っている。

※30年度（補充的な学習の指導：+2.8，発展的な学習の指導：-5.7）

- ◆「実生活における事象との関連を図った授業を行った」と回答している学校の割合が、全国平均を下回っている。

※中学校数学の正答率が低かった問題（6）(2)

【正答率…市：37.4，全国：34.7 無回答率…市：9.5，全国：11.6】

(2) 健太さんの家では、7ページの健太さんが作った表で、容量が500 Lである冷蔵庫Bと冷蔵庫Cのどちらかを購入することになりました。そこで、健太さんとお姉さんは、冷蔵庫を購入して x 年間使用するときの総費用を y 円として、冷蔵庫Bと冷蔵庫Cの総費用を比べてみることにしました。

健太さん「本体価格は冷蔵庫Cの方が高いので、最初のうちは冷蔵庫Bより冷蔵庫Cの方が総費用が多いね。」
お姉さん「1年間あたりの電気代は冷蔵庫Cの方が安いので、使い続けると冷蔵庫Bより冷蔵庫Cの方が総費用が少なくなるね。」
健太さん「それなら、2つの冷蔵庫の総費用が等しくなるときがあるね。」

冷蔵庫Bと冷蔵庫Cの総費用が等しくなるおよその使用年数を考えます。下のア、イのどちらかを選び、それを用いて冷蔵庫Bと冷蔵庫Cの総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明しなさい。
ア、イのどちらを選んで説明してもかまいません。

ア それぞれの冷蔵庫の使用年数と総費用の関係を表す式

イ それぞれの冷蔵庫の使用年数と総費用の関係を表すグラフ

(7) 中学校英語に関する調査結果について

①領域ごとの調査結果

全国平均正答率と比べ 上回っている 下回っている (%)

中学校英語	福岡市	全国
教科全体	57	56.0
聞くこと	69.5	67.9
話すこと (参考値)	35.0	30.8
読むこと	57.6	55.6
書くこと	46.8	45.8

②観点ごとの調査結果

(%)

中学校英語	福岡市	全国
教科全体	57	56.0
コミュニケーションへの関心・意欲・態度		
外国語表現の能力	1.7	1.8
外国語理解の能力	46.2	44.7
言語や文化についての知識・理解	66.3	64.7

◆領域ごとでは、すべてで全国平均を上回っている。

◆観点ごとでは、「外国語理解の能力」「言語や文化についての知識・理解」において、全国平均を上回り、「外国語表現の能力」において、全国平均を下回っている。

③平均正答率が高かった問題と低かった問題

【正答率が高かった問題】

(%)

問題番号	設問の概要	市	全国	全国比
1 (1)	語と語の連結による音変化をとらえて、情報を正確に聞き取ることができる	91.8	91.1	+0.7
1 (2)	教室英語を理解して、情報を正確に聞き取ることができる	90.5	88.6	+1.9

【正答率が低かった問題】

(%)

問題番号	設問の概要	市	全国	全国比
4	聞いて把握した内容について、適切に応じることができる	8.3	7.6	+0.7
10	与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書くことができる	1.7	1.8	-0.1

④生徒に対する質問紙調査の結果から

問54	「英語の勉強は好きですか」	56.6% (全国比 +0.6)
問55	「英語の勉強は大切だと思いますか」	87.0% (全国比 +1.6)
問56	「英語の授業はよく分かりますか」	62.1% (全国比 -3.9)
問57	「解答時間は十分でしたか（英語）」	56.6% (全国比 -6.4)

◆「英語の勉強が好き」「英語の勉強は大切だ」と回答した生徒の割合が、全国平均を上回っている。一方で、「英語の授業はよく分かる」「解答時間は十分だ」と回答している生徒の割合は、全国平均を下回っている。

⑤学校に対する質問紙調査の結果から

問54 「前年度までに、原稿などの準備をすることなく、（即興で）自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う言語活動を行いましたか」 62.3%（全国比 **-2.8**）

問55 「前年度までに、英語でスピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する言語活動を行いましたか」 79.7%（全国比 **-1.1**）

問62 「英語担当教師とALT（外国語指導助手）との間で、授業のねらいや活動の意図、各学級や一人一人の生徒の実態等について共通認識を持ち、協力して授業を行うことができていると思いますか」 100%（全国比 **+6.6**）

◆「（即興で）自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う言語活動を行っている」「スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する言語活動を行っている」と回答した学校の割合が、全国平均を下回っている。この点について、今後各学校における授業改善の取組をさらに充実させていく必要があると考えられる。

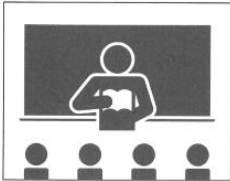
◆すべての学校が、「英語担当教師とALT（外国語指導助手）との間で、協力して授業を行うことができている」と回答し、全国平均を上回っている。

※中学校英語の正答率が低かった問題 (10)

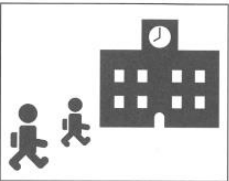
【正答率…市：1.7，全国：1.8　無回答率…市：6.6，全国：8.3】

10 海外のある町が、外国人旅行者にも分かりやすいタウン・ガイドを作成するために、「学校」を表す2つのピクトグラム（案内用図記号）のうち、どちらがよいかウェブサイトで意見を募集しています。どちらかの案を選び、2つの案について触れながら、あなたの考えを理由とともに25語以上の英語で書きなさい。

【 A 】



【 B 】



※ 短縮形（I'm や don't など）は1語と数え、符号（、や？ など）は語数に含めません。

（例） No. I'm not. 【 3語 】

※ 下の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

25

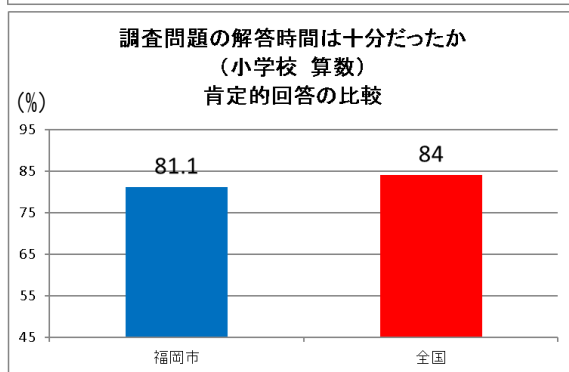
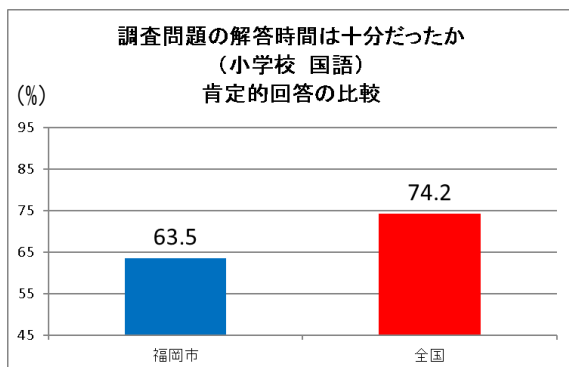
45

3 問題への取り組みの状況及び無回答率の傾向について

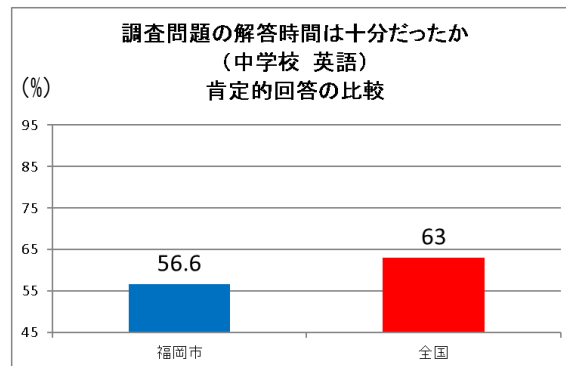
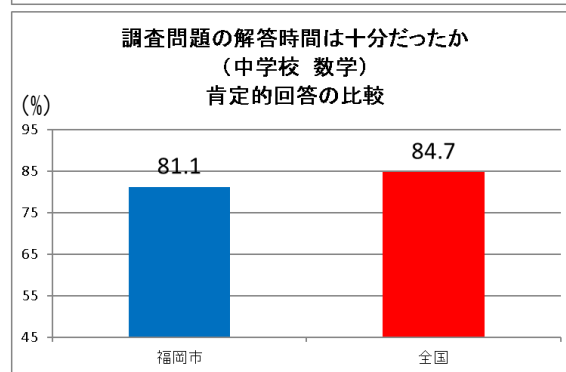
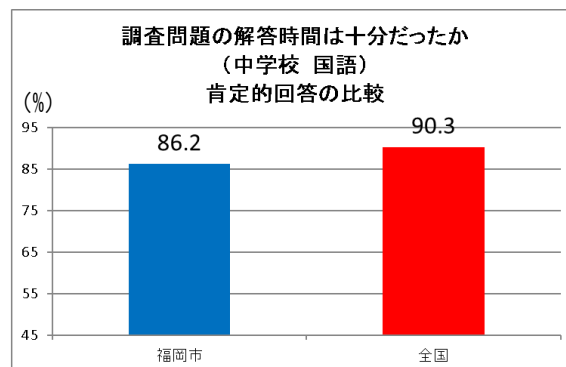
(1) 児童生徒質問紙における、問題への取り組みの状況

①調査問題の解答時間に対する児童生徒の意識（肯定的解答）

【小学校】

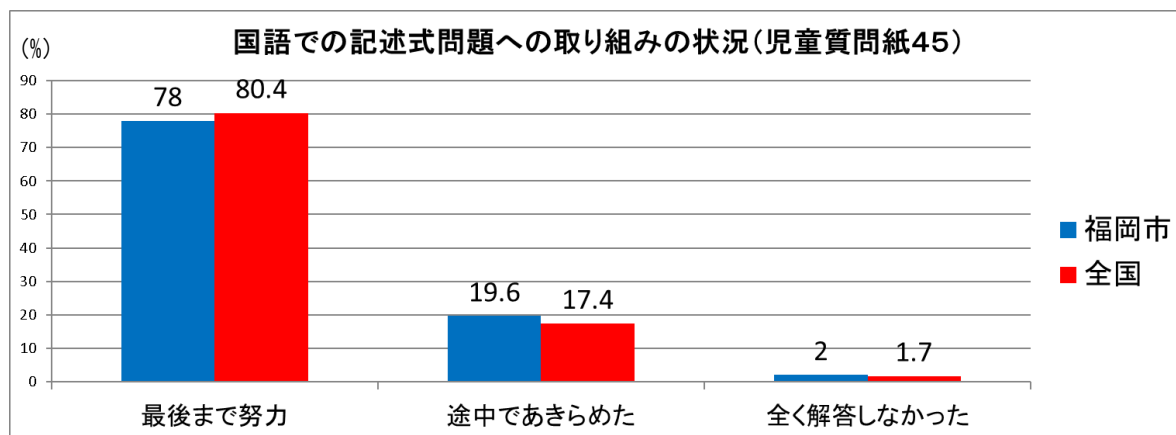


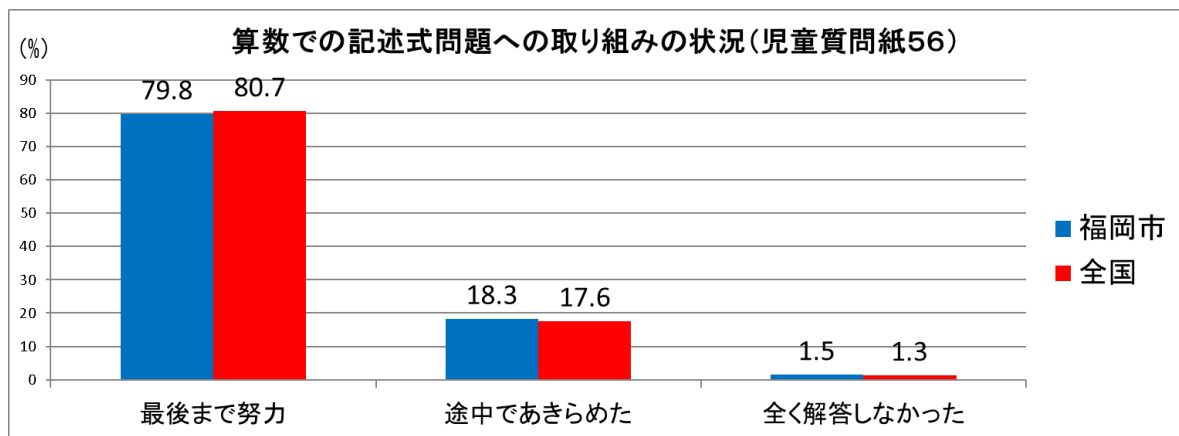
【中学校】



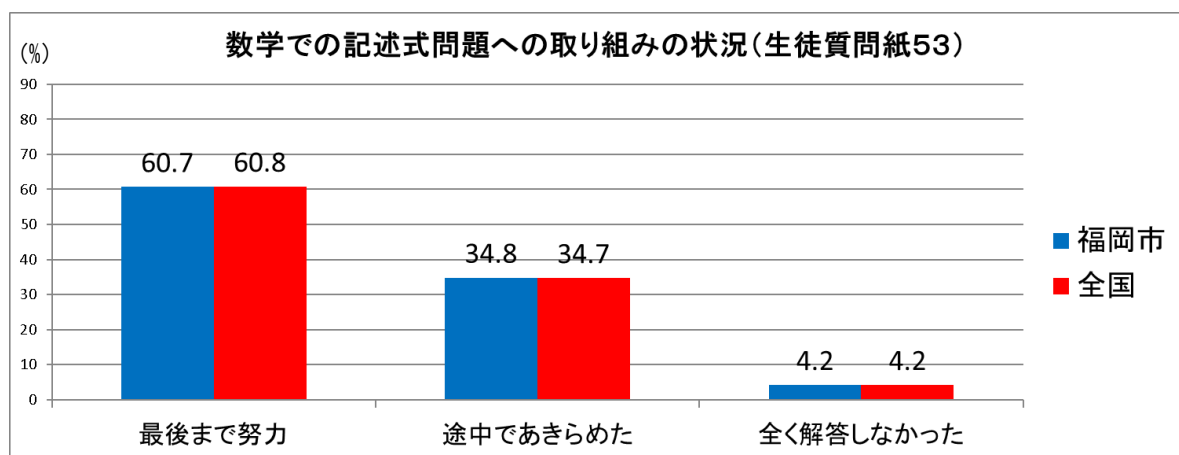
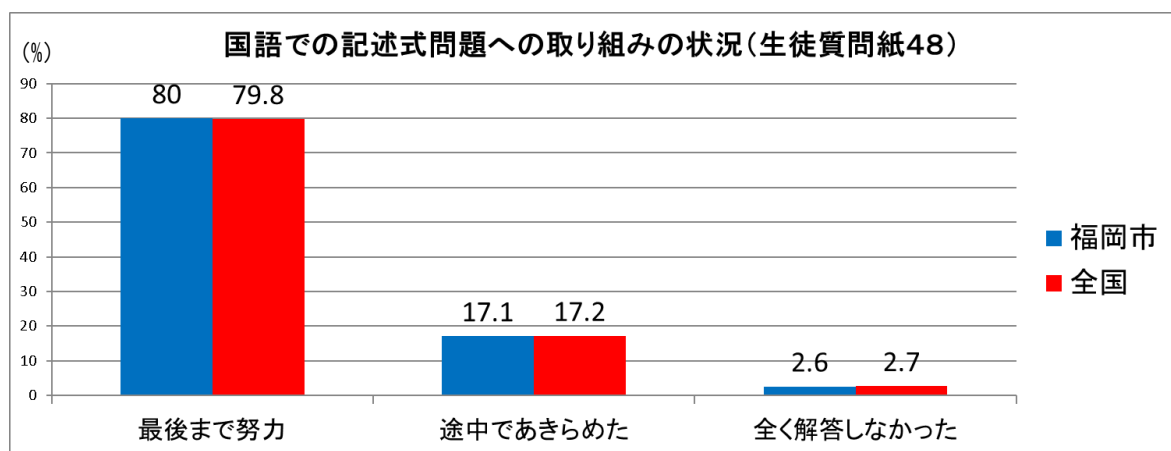
②児童生徒質問紙における算数、数学における記述式問題への取り組みの状況

【小学校】



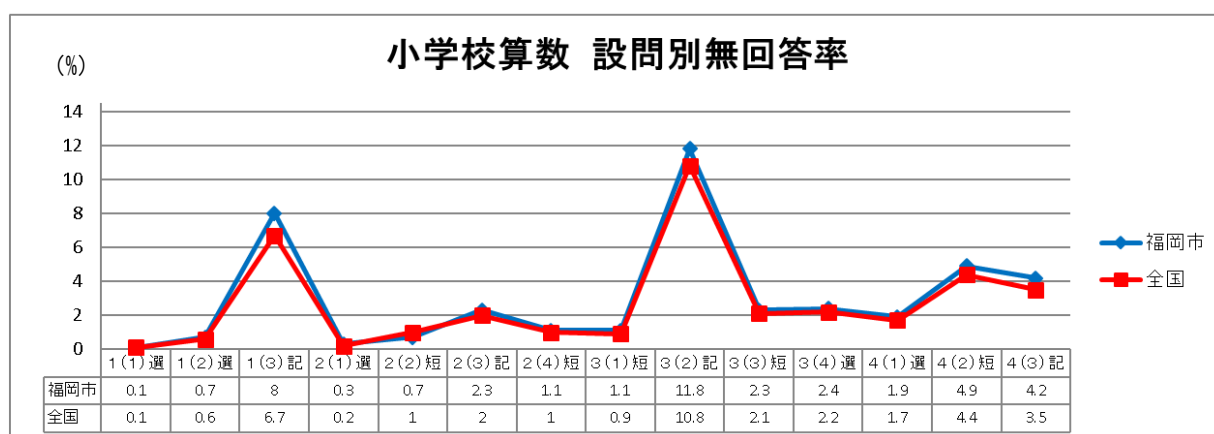
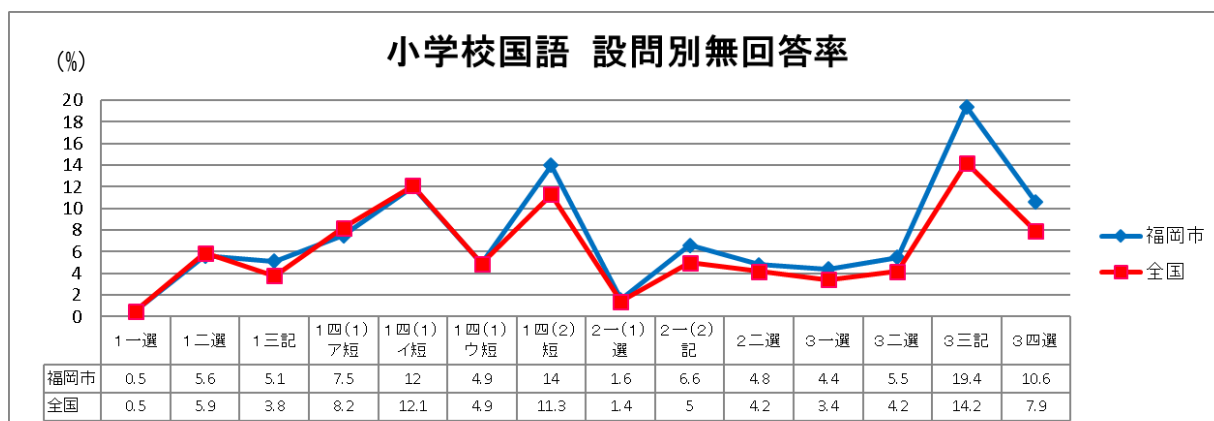


【中学校】



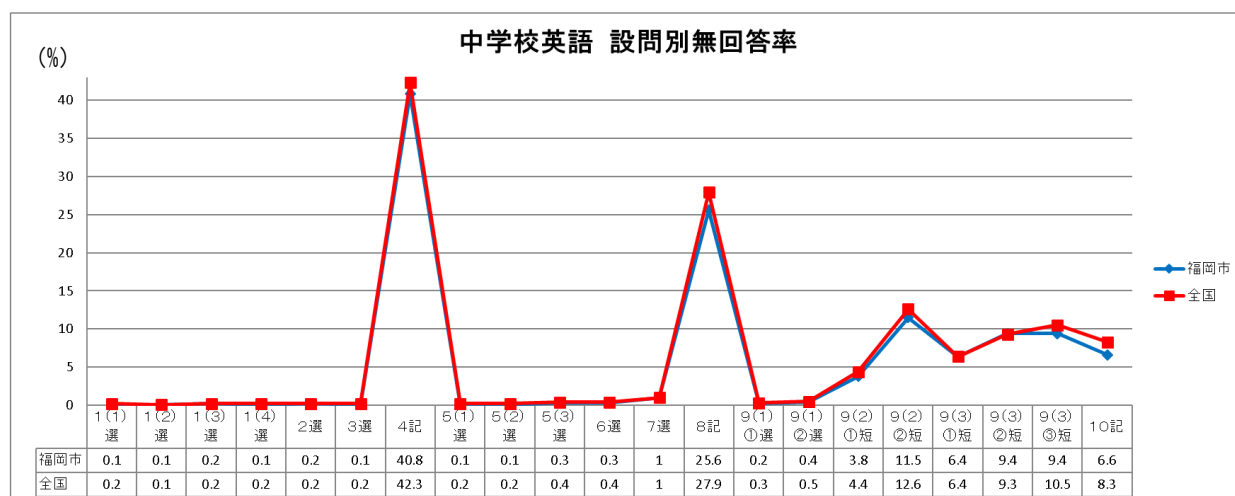
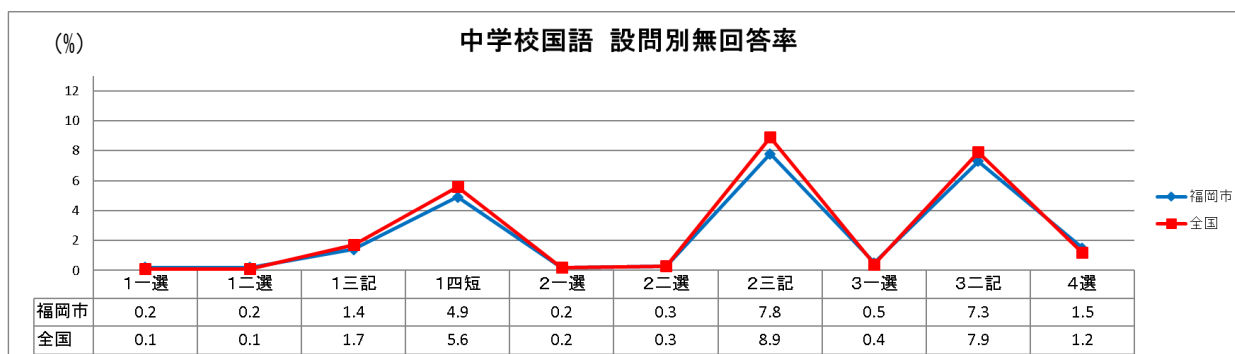
- ◆ 小学校と中学校を比較すると、昨年度と同様に、調査問題の解答時間が十分だったと回答した児童の割合が、中学校よりも少ない傾向にあり、小中学校ともに全国平均よりも下回っている。小学校の解答時間については、昨年度に引き続き課題が見られており、「読むこと」と「書くこと」を関連付けて分析をしていくことが必要である。
- ◆ 記述式問題への取り組みの状況については、小学校、中学校ともに全国平均とほぼ同程度であるが、小学校国語、算数、中学校数学においては、「最後まで努力」と回答した児童が全国平均を若干下回り、「途中であきらめた」と回答した児童が全国平均を若干上回っている。一方で、中学校国語においては、「最後まで努力」と回答した生徒が全国を上回り、「途中であきらめた」と回答した生徒が全国を若干下回っている。

(2) 小学校 設問別無回答率



- ◆ 小学校では、国語、算数どちらの調査についても、無回答率が全国平均を上回っている傾向が強い。
- ◆ 全国の傾向と同じように、記述式問題の無回答率が高くなっている。
- ◆ 昨年度に引き続き、国語において、問題の後半で、無回答率が上昇していく傾向がある。

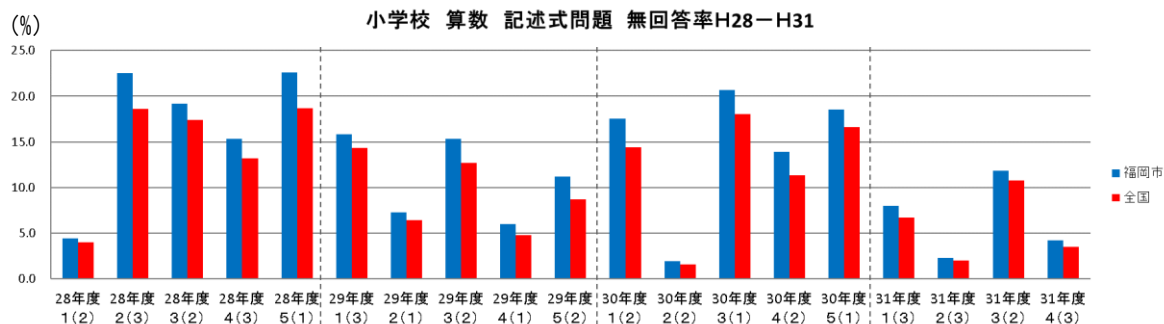
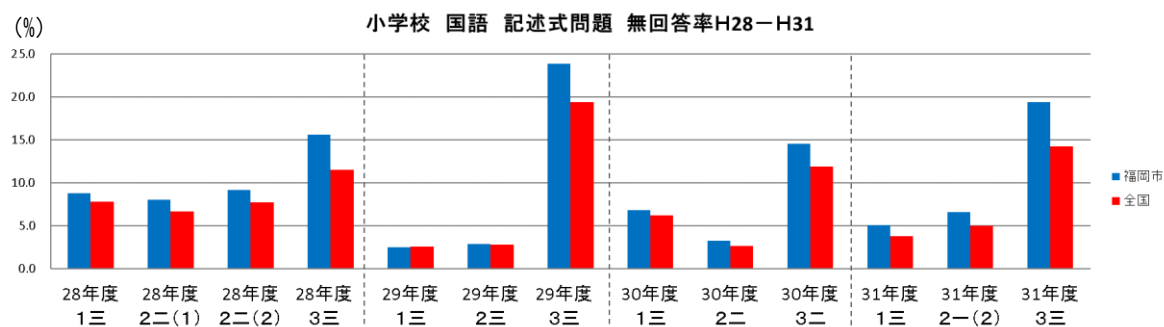
(3) 中学校 設問別無回答率



- ◆ 中学校では、無回答率が全国平均と同等、あるいは下回っているものが多い傾向が見られる。
- ◆ 全国の傾向と同じように、記述式問題の無回答率が高くなっている。
- ◆ 小学校に見られた、問題の後半で、無回答率が上昇していくといった傾向は、中学校においては見られない。

(4) 平成 28 年度から平成 31 年度における記述式問題での無回答率

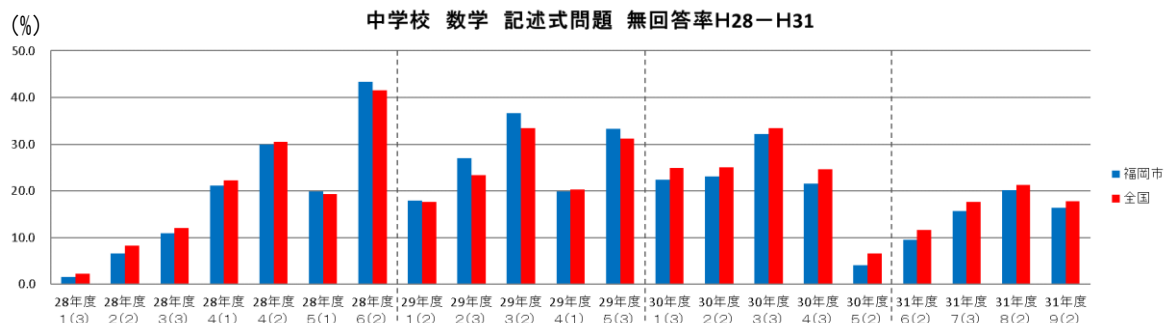
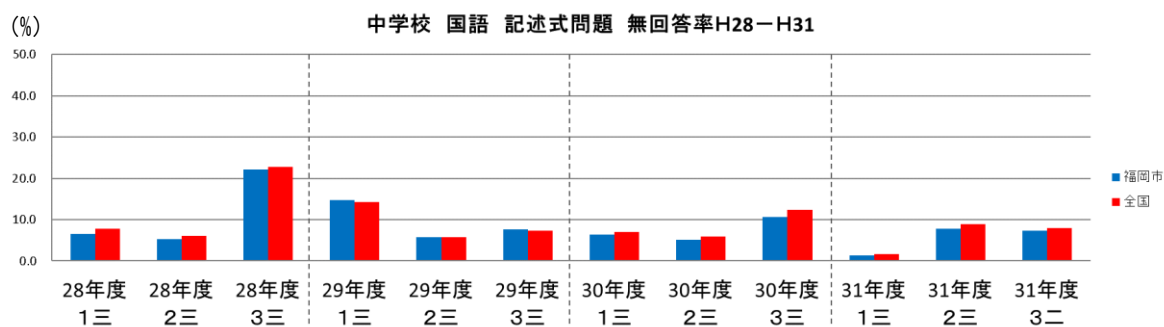
【小学校】



◆国語では、平成 28 年度から 4 年間、無回答率が全国より高い傾向にある。特に、どの年度も最後の記述式の問題（28 年度 3 三、29 年度 3 三、30 年度 3 二、31 年度 3 三）においては、全国平均を大きく上回っている。

◆算数では、国語と同様に記述式の問題の無回答率が全国平均を上回る傾向にある。

【中学校】



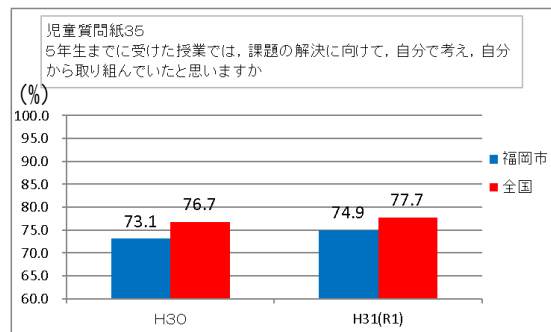
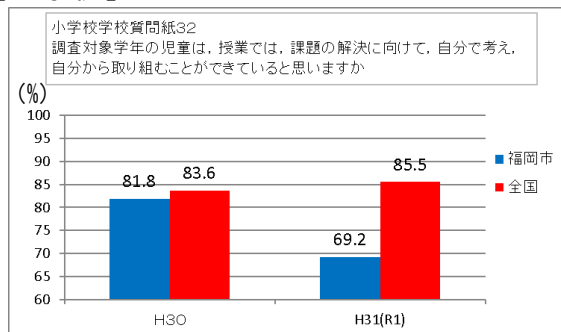
◆国語においては、4 年間、無回答率が全国平均より低い傾向にある。小学校に比べ、記述式の問題をあまり苦手としていない。

◆数学においては、平成 29 年度の無回答率が全国平均を上回っているが、平成 28 年度、平成 30 年度、平成 31 年度は、無回答率が全国平均を下回る傾向にあり、国語科と同様に記述式の問題をあまり苦手としていない。

4 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

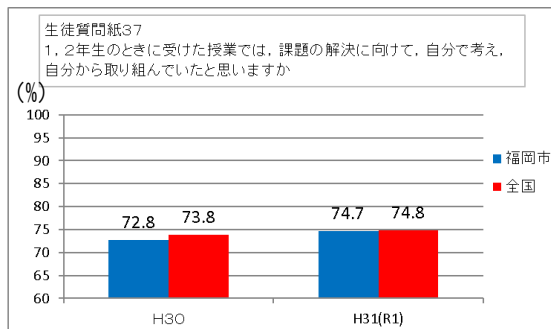
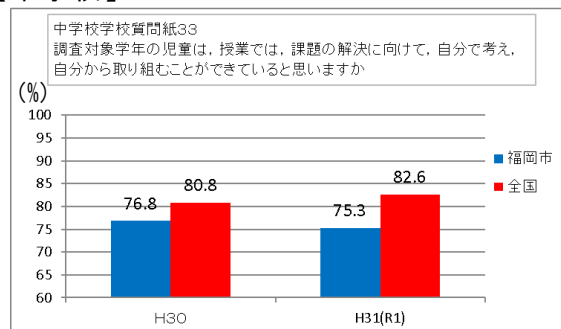
(1) 主体的・対話的で深い学びに関する質問項目①

【小学校】



- ◆ 小学校質問紙 32 の「調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか」との質問に、肯定的に回答した学校の割合は、昨年度と比較すると大きく全国平均を下回っている。
- ◆ 児童質問紙 35、「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」との質問に、肯定的に回答した児童生徒の割合は、全国平均を下回っているものの、昨年度と比較すると向上している。

【中学校】

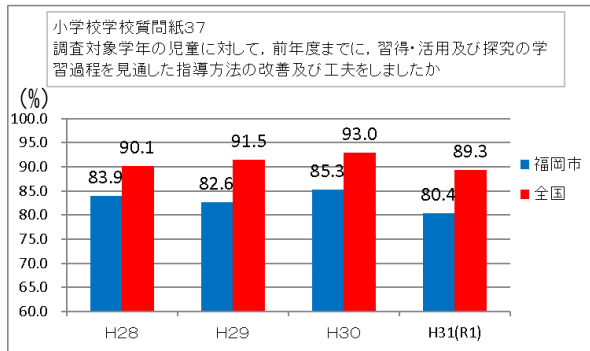


- ◆ 中学校質問紙 33 の「調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか」との質問に、肯定的に回答した学校の割合は、昨年度よりも若干低下している。
- ◆ 生徒質問紙 37 の「1, 2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」との質問に、肯定的に回答した生徒の割合は、全国平均とほぼ同程度まで向上している。

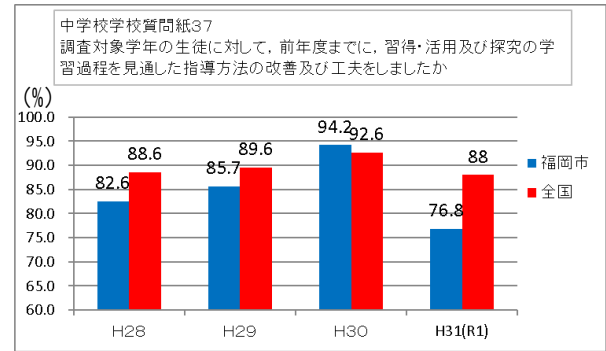
(2) 主体的・対話的で深い学びの視点に関する質問項目②

①指導方法の工夫改善について（学校質問紙より）

【小学校】



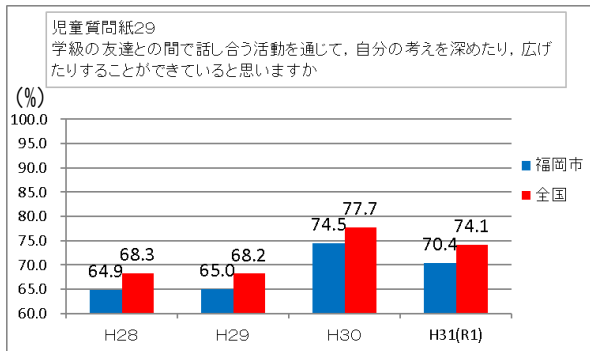
【中学校】



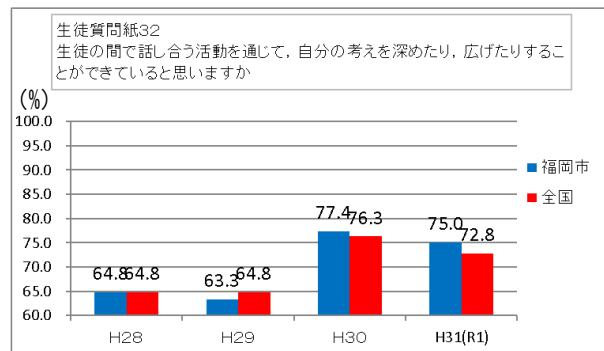
- ◆小学校質問紙 37（中学校質問紙 37）の「調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか」との質問に、肯定的に回答した小中学校の割合は、全国平均を下回っており、今年度は、過去3年間の中で最も低くなっている。

②話し合う活動について（児童生徒質問紙より）

【小学校】



【中学校】



- ◆児童質問紙 29 の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」との質問に、肯定的に回答した児童の割合は、全国平均を下回っており、昨年度と比較すると低下している。
- ◆生徒質問紙 32 の「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」との質問に、肯定的に回答した生徒の割合は、昨年度に引き続き、全国平均を上回っており、全国平均との差も向上している。

5 向上が見られた学校の取組について（定着度調査及び全国学調の標準化得点をもとに）

（１）小学校

①小４定着度→小６全国で、標準化得点が５ポイント以上向上した学校数

○国語・・・３５校，算数・・・２９校

②小５定着度→小６全国で、標準化得点が５ポイント以上向上した学校数

○国語・・・２２校，算数・・・２０校

③標準化得点が向上した学校のうち、複数校で実施している取組

（平成３０年度 学力向上推進プランより）

【日々の授業改善】

- ◆ティームティーチングや習熟度別学習など少人数指導の充実
- ◆「考える」時間を確保した授業の推進
- ◆日頃の授業に「主体的に考え，書く」活動を位置付ける
- ◆思考力育成のために，読みの力をつける指導法の工夫

④標準化得点が向上した学校のうち、特徴的な取組

【日々の授業改善】

- ◆自己評価活動を適切に位置付け，振り返り活動の確実な実施
- ◆「対話活動」を重視した学習活動の充実
- ◆理科や算数のノートの書き方の統一

【授業を支える日常的な取組】

- ◆長期休業前の課題テストの実施
- ◆１日２回の帯タイムによるモジュール授業の実施
- ◆中学校ブロック３校共通漢字テストの実施
- ◆授業の中に５分ミニテストなどの位置付け

【家庭・地域との連携】

- ◆地域人材を活用した「パワーアップ算数補充学習」の実施
- ◆家庭学習で依頼することの明確化と補充学習と家庭学習とをリンクさせる取組の実施
- ◆「学習のてびき」「家庭学習チェック表」の配付

(2) 中学校

①中1定着度→中3全国で、標準化得点が5ポイント以上向上した学校数

○国語・・・ 8校、数学・・・19校

②中2定着度→中3全国で、標準化得点が5ポイント以上向上した学校数

○国語・・・ 4校、数学・・・16校

③標準化得点が向上した学校のうち、複数校で実施している取組

(平成30年度 学力向上推進プランより)

【日々の授業改善】

- ◆「学び合い」や「対話活動」を取り入れた授業展開の工夫
- ◆習熟度別学習の実施（数学科、補充学習）
- ◆ティームティーチングの実施（英語科）
- ◆「授業改善の3つのポイント」を意識した授業実践

④標準化得点が向上した学校のうち、特徴的な取組

【日々の授業改善】

- ◆ICT機器を効果的に活用した授業の研究
- ◆学力テストの実態を把握・共有するとともに、生徒及び教職員による評価を生かして、日々の授業改善の実施
- ◆全教科で表現活動の工夫を取り入れた授業実践。

【授業を支える日常的な取組】

- ◆全生徒に対して補充学習の実施
- ◆「学習のきまり」を全教職員で確認し、教室へ掲示
- ◆定期的な学習コンクールの実施
- ◆コミュニケーション能力育成プログラムや表現力を高める活動の実施

【家庭・地域との連携】

- ◆保護者と連携した家庭学習ノートの点検活動の実施
- ◆小学校との家庭学習の在り方についての連携(小学校高学年と中学校の家庭学習の連携)
- ◆近隣の大学と連携した補充学習会の実施

6 調査結果の全体考察

- ◆小学校では、国語は全国平均と同程度、算数は全国平均を上回った。中学校では、国語、数学、英語のすべてにおいて全国平均を上回った。一方で、小中学校ともに、領域別や観点別で見ると、全国平均を下回っているものがあるため、今後、各学校において、自校の課題に応じた取組を着実に実施していくことが求められる。
- ◆小学校の無回答率が、依然として全国と比較して高い傾向が見られた。各学校の無回答率の現状と課題の分析を行い、各学校の課題に応じた取組を充実させていくことが求められる。中学校の無回答率については、全国平均を下回る傾向にある。今後、各学校において、自校の無回答率の状況を改善していくためには、「考えを書く」活動の効果的な位置付け方などについて、「授業改善の手引き」をもとにした、授業改善に取り組んでいく必要がある。
- ◆学習習慣や生活習慣の定着状況では、児童生徒質問紙において全校平均と比べ、肯定回答率が低い傾向にある。家庭学習や授業内容の理解に関する項目の向上が課題である。

7 今後の取組について

(1) 各学校での取組の努力点

- ◆各学校における的確な課題分析に基づいた、個々の学力向上をめざした指導方法の工夫
【主な具体例】
 - ・「授業改善の手引き」を踏まえた日々の授業の質的改善
 - ・少人数指導等の積極的な活用
 - ・「考えを書く」活動を効果的に位置付けた指導方法の工夫
 - ・読みの力を高める指導方法の工夫
- ◆学校での学習の定着度に応じた家庭学習の工夫
【主な具体例】
 - ・学習意欲を高める内容や方法の工夫
 - ・正答率が低かった問題の学び直し

(2) 教育委員会としての取組

- ◆全国調査算数・数学の設問番号と、「みんなの学習クラブ（i プリ）」番号との関連表作成と各学校への通知（夏季休業中に通知済）
- ◆「学力向上のための指導資料」を活用した、指導主事による学校訪問での指導
 - ・各学校の学力課題や生徒指導上の課題に応じた学校との双方向的な協議
(10月以降を予定)
- ◆「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた『授業改善の手引き』詳細版の作成
(3月末を予定)